

株式会社 大和化学工業所

ものづくり技術

一般型

成形技術×印刷技術を組み合わせ お客様の「欲しい!」をプロデュース

事業内容 プラスチックの射出成型業者 高付加価値の製品を提供し続ける

2002年(平成14年)、現代表である大谷正樹氏が30歳の時に先代から事業を継承して以来、プラスチックの成形加工に重きを置き、営業展開してきた。ある程度ロットを確保できる案件は、海外の安い製品とのコスト競争を強いられるなどで上手く時流に乗れず、また製品競争力のない企業と取引した際は、不良債権が発生するなど、これまでに苦い経験を重ねてきた。

その経験からものづくりの原点に立ち返り、「価格競争に巻き込まれない付加価値が高い製品づくりにこだわり、その開発段階から関わっていく必要がある」との結論に至っ

た。現在は、家庭用品雑貨関連のプラスチック成形がメインとなっており、ボトル洗いやシンク洗いの取手部分、しゃもじなど、請け負っている仕事内容は幅広い。なるべく開発段階から打ち合わせを行い、取引先がイメージする製品を形にできるように努めている。豊富なアイデアとこれまで培ってきた成形技術が同社の強みとなっている。

基本的には、通販会社や商社筋での販売が主軸であるが、近年は自社開発商品をアマゾンやヤフーショッピングといった大手通販サイトに掲載するなど、自社製品の直接販売にも乗り出している。

補助事業 得意先からの依頼が発展 スクリーン印刷とUV印刷とのコラボレーション

以前、既存の得意先からキッチンの水はねを防止できるボードを製作できないかとの依頼を受けたが、技術的にも、価格的にも対応が難しかったため、当時は請け負うことができなかった。その後、アクリルボードをきれいにカットするレーザー加工機とプラスチックにきれいに印刷するUVプリンターを見学する機会を得た。これら2つの機械とこれまで培ってきた成形技術を組み合わせれば、以前に対応できなかったキッチンの水はね防止ボードよりもっと良いものが作れるに違いないとの仮説を立てた。

同社で、製品化を視野に置いて調査を進めると、アクリル製のキッチン水はね防止ボードのほとんどはカットしたままの無地の状態で販売されていることがわかった。また、印刷を施したくても、大きなアクリル板に印刷をするプリンターが高額なため、水はね防止ボードの需要だけでプリンターに投資できないという事情を印刷機メーカーからヒアリングできた。



原価率(インクや製造原価)の高さが原因で、デザイン性の高いキッチン水はね防止ボードはこれまでどこも手掛けてこなかったが、同社では印刷コスト、機械チャージなどコスト削減余地があると判断し、事業化の目処が立てられた。そこで、今回の補助事業では、UVプリンターとレーザー加工機を導入し、製品化を目指した。

株式会社 大和化学工業所

代表取締役 大谷 正樹
〒642-0012 海南市岡田305-5
TEL: 073-482-9595 FAX: 073-482-9911
URL: http://daiwakagaku.net

〈業種〉樹脂製品製造
〈設立〉1988年5月
〈資本金〉10,000千円
〈従業員〉20人

〈下津工場〉
〒649-0111 海南市下津町方1116
TEL: 073-492-1603
FAX: 073-492-3757

成果

低価格なキッチン水はね防止ボードを開発 販路も徐々に拡大

デザイン性の高いキッチン水はね防止ボードの低価格化を実現できたことにより、現在は販路拡大に力を入れている。中小企業基盤整備機構の販路開拓コーディネート事業にも採択され、百貨店や大手雑貨店、ホームセンターなどへの販路開拓を進めている。

現段階での具体的な実績としては、大手通販会社である千趣会の「ディズニーカタログ」への採用が決まったほか、既存得意先であるネット販売会社での販売も開始され、販路は徐々に拡大している。アマゾンやヤフーのショッピングサイトへの掲載も行い、なるべく多くの人の目に触れるようにしていく。

一方で、既存の得意先からは新製品以外の継続的な受注もあるため、新製品の開発に割くことのできる時間が限られているのが現状だ。新製品開発に割く時間をなるべく

増やせるように努め、蓄光顔料を配合したインクを用いたキッチンボードの開発など、今回の補助事業で導入した機械設備を用いた商品ラインナップも増やしていく予定である。



▲キッチン水はね防止ボード

今後の展開

キッチン水はね防止ボードに続く、新製品の開発 成形専門業者からの脱皮を図る

今回の補助事業により、自由自在にアクリル板をカットし様々な絵柄を印刷することが可能となったことから、キッチン水はね防止ボード以外の製品開発も進めていく。具体的には、デザイン性の高いアクリル板を使った時計、キーホルダー、ふきんかけ、ジグソーパズルなどの試作開発を行っていく予定だ。

これまでのプラスチック成形業者は、クライアントが作成した金型を成形加工業者各社で単価を競い合い、一番安いところが製品を大量生産する形であった。しかし、同社

としては今後、商品の図面の前段階に力を入れていきたいとしている。まだ世の中に存在しない製品のイメージを提供し、その製品化のお手伝いをしていくということである。

安価な製品で満足してくれる消費者がいるのは事実だが、価格的には高めであっても良いものが欲しいという消費者がいるのも事実。同社は、メインターゲットを後者に絞り、付加価値の高い製品を市場に送り込んでいくことに力を注いでいく。



▲ふきんかけ



▲時計